
日本ロシア文学会会報 第33号 2007年9月

1. 2007年度(第57回)定例総会・研究発表会日程 2. 7月理事会
関連事項 3. 学会賞決定 4. 会員異動 5. 会誌編集委員会より

1. 2007年度(第57回) 定例総会・研究発表会 日程

第57回定例総会・研究発表会は、来たる10月27日(土)、28日(日)の両日、千葉大学西千葉キャンパスで開催されます。また、10月26日(金)には、プレシンポジウムが開催されます(詳細については下記をご参照下さい)。

研究発表会は、3会場23本の発表が予定されているほか、それらに並行して2本のパネルディスカッション・ワークショップが開かれます。なお、**今年からそれぞれの要旨はこの会報と前後してお手元に届**

く学会誌別冊に掲載されることになりましたのでそちらをご参照下さい。

以下、日程をご確認の上、同封のはがきで当日のご予定を9月30日(土)までにお知らせいただくようお願いいたします。

当日会場での録音、ならびに書籍等の販売を希望される方は、事務局までお申し出下さい。

プレシンポジウム

「生きのびるためのアート——ロシア美術の最前線」

日時：10月26日(金) 18:00-20:00(開場17:30)

会場：千葉大学けやき会館ホール(8頁の案内をご覧ください。)

ロシア美術は、19世紀美術から、象徴主義、アヴァンギャルド、社会主義リアリズム、現代アートにいたるまで、つねに文学との相互関係のなかで発展してきました。このシンポジウムでは、ロシア美術と文学、建築、音楽、絵本、パフォーマンスの関係、現代アートの状況、世界における現代ロシア文化などについて、文学者と美術・文化学者双方の立場から、幅広い見取り図を描きだします。

飯島洋一「破壊と現代」(多摩美術大学)

初山昌夫「イリヤ・カバコフ『世界図鑑』展をめぐって」(神奈川県立近代美術館)

鈴木正美「言葉と行為——二人のパフォーマーをめぐって」(新潟大学)

コメンテーター：貝澤哉(早稲田大学)、福間加容(千葉大学)

司会：鴻野わか菜(千葉大学)

日本ロシア文学会主催、千葉大学文学部共催、神奈川県立近代美術館協力

特別講演

ヴラジーミル・アレクサンドロフ教授(イエール大学スラヴ学科長)

解釈の限界 Границы интерпретации ——『アンナ・カレニナ』の様々な意味をめぐって——

(講演・質疑応答はロシア語、通訳なし)

10月27日(土) 15:00-16:00

マルチメディア会議室(社会文化科学系総合研究棟2階)

日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究グループ「越境と多文化」(代表:楯岡求美神戸大准教授)の招聘により初来日されるヴラジーミル・アレクサンドロフ博士に、特別講演をしていただけることになりました。同博士はアメリカを代表するロシア文学者の一人で、ペールイヤナボコフについての研究で知られていますが、今回は最新の著書 *Limits to Interpretation: The Meanings of Anna Karenina* (2004) の概要をお話しいたします。同書は厳密なテキスト分析を通じて『アンナ・カレニナ』の持つ様々な解釈の可能性を示すとともに、テキスト読解の方法論にネオフォルマリスト的な立場から新風を吹き込んだ画期的な研究書として高く評価され、アメリカのMLAのスラヴ語学文学研究賞を受賞しました。

* * *

なお、アレクサンドロフ博士は日本滞在中、この他にも以下の二箇所で開催を行う予定です。

10月25日(木) 東京大学文学部現代文芸論研究室

<ジュール・ヴェルヌの『ミシェル・ストロゴフ』と亡命ロシア映画の神話学> (英語)

10月28日(日) 日本ナボコフ協会大会(京都大学)

<解釈の複数性——『ロリータ』をめぐって> (英語)

懇親会のご案内

日時: 10月27日(土) 18:30-20:30

会場: 千葉大学 けやき会館3階 レセプションホール(8頁の案内をご覧ください。)

会費: 一般5000円(予定) 院生向けの会費設定も検討中です。

懇親会場は、総会・研究発表会場から徒歩1分です。ふるって御参加ください。

参加ご希望の方は同封のはがきでお知らせ下さい。

タイムテーブル

10月26日(金)	10月27日(土)				10月28日(日)				
	開会式 9:55-10:10								
		A	B	C会場		A	B	C会場	
開場：17:30	研究発表 午前	10:15-10:45	①	パネルディスカッション [α] 10:25-11:55	研究発表 午前				
		10:50-11:20				⑤	10:50-11:20	③	⑦
		11:25-11:55					11:25-11:55		
	各支部総会	12:00-12:55			各種委員会	12:00-12:55			
	研究発表 午後	13:00-13:30	②	⑥	ワークショップ [β] 13:00-14:40	研究発表 午後	13:00-13:30	④	⑧
		13:35-14:05					13:35-14:05		
		14:10-14:40					14:10-14:40		
理事会	14:45-16:15	V. アレクサンドロフ氏特別講演 (15:00-16:00)							
	定例総会	16:20-18:00	A会場＝文学関係 B会場＝その他（文化、芸術、思想など） C会場＝語学関係、パネルディスカッション等						
プレシンポジウム (18:00-20:00)	懇親会	18:30-							

研究発表

A 会場			題名	発表者	司会者
① 10月27日(土) 午前	A01	10:15-10:45	チャーホフの『かもめ』における家族像	内田健介	浦雅春 堀江新二
	A02	10:50-11:20	ガルシンに関する文学批評から見る“沈滞の時代”	大山麻稀子	
② 10月27日(土) 午後	A03	13:00-13:30	《インテグラル》をわれらのものに！——『われら』の二重構造を構成する“数学的な詩”	宮本宗実	貝澤哉 岩本和久
	A04	13:35-14:05	ミハイル・ブルガーコフと1920年代ソ連の反宗教プロパガンダ	大森雅子	
	A05	14:10-14:40	ナールビコフ『昼の星と夜の星、光の均衡』における空間構成——自然/都市の融合と文学的記憶	前田しほ	
③ 10月28日(日) 午前	A06	11:25-11:55	ナボコフ「報せ」における二度の「翻訳」	秋草俊一郎	諫早勇一 野中進
	A07	10:50-11:20	A. シニャフスキーの創作における文学的役割としてのアブラム・テルツの創造	中野幸男	
④ 10月28日(日) 午後	A08	13:00-13:30	Л. トルストイの作品における文明・旅・時間	覚張シルビア	木村崇 木下豊房
	A09	13:35-14:05	レールモントフにおけるバイロン受容	山路明日太	
	A10	14:10-14:40	1876年のドストエフスキーとクロネベルグ裁判論争	尾松亮	

B 会場		題名	発表者	司会者
⑤ 10月27日(土) 午前	B11	10:15-10:45	モダニズム絵画を反復する写真——A. ロトチェンコの作品と「コンストラクション」の概念をめぐって	河村彩
	B12	10:50-11:20	音楽と言葉——芸術音楽における旋律とロシア語の統語論	一柳富美子
	B13	11:25-11:55	チャイコフスキーの《エヴゲーニイ・オネーギン》	小松佑子
⑥ 10月27日(土) 午後	B14	13:00-13:30	博物館の廃墟にて——ペーパー・アーキテクチャー運動における建築の記憶と記述の問題	本田晃子
	B15	13:35-14:05	Yu. ノルシュテイン『話の話』について——S. エイゼンシュテイン晩年の芸術理論を手がかりに	土居伸彰
	B16	14:10-14:40	1980年代ソ連映画におけるドキュメンタリー性の「爆発的」な変容について	横田智史
⑦ 10月28日(日) 午前	B17	10:50-11:20	「稲佐お栄」の誕生	宮崎千穂
	B18	11:25-11:55	国境の認識Ⅱ——近世後期から幕末にかけて	有泉和子
⑧ 10月28日(日) 午後	B19	13:00-13:30	セルゲイ・トルベツコイの認識論的著作『人間意識の本性について』の言語論	木部敬
	B20	13:35-14:05	フョードロフの終末論の構造と意義	小俣智史
	B21	14:10-14:40	P. D. ユルケーヴィチにおけるプラトニズムと西欧近代哲学の相克	宇都弥生

C 会場		題名	発表者	司会者
⑨ 10月28日(日) 午前	C22	10:50-11:20	《Ты》 или 《Вы》?	村越律子
	C23	11:25-11:55	古代教会スラブ語における分詞の短語尾・長語尾について	恩田義徳

パネルディスカッション・ワークショップ

C 会場	題名	発言者
C- α (27 日午前) 10:25-11:55	パネルディスカッション： ロシア・フォルマリズム 文学理論を超えて——メディア、経験科学、一般意味論	報告：野中進（代表）、八木君人、V. グレチコ コメント：貝澤哉
C- β (27 日午後) 13:00-14:40	ワークショップ： ロシア語教育を考える——ロシア語学研究の立場から	司会・総括：中澤英彦（代表） 報告：臼山利信、小林潔、堤正典、匹田剛、山田久就 コメント：金田一真澄、林田理恵

総会・研究発表会 会場案内

受付：社会文化科学系総合研究棟 1 階

開会式：マルチメディア会議室（社会文化科学系総合研究棟 2 階）

研究発表会・パネルディスカッション：

A会場：マルチメディア講義室（社会文化科学系総合研究棟 1 階）

B会場：マルチメディア会議室（社会文化科学系総合研究棟 2 階）

C会場：103 教室（文学部棟 1 階）

各支部総会 関東支部：共通演習室 2（社会文化科学系総合研究棟 1 階）

理事会：共通研究室 2（社会文化科学系総合研究棟 4 階）

V.アレクサンドロフ氏記念講演：マルチメディア会議室（社会文化科学系総合研究棟 2 階）

定例総会：マルチメディア会議室（社会文化科学系総合研究棟 2 階）

各種委員会：

誌編集委員会：マルチメディア会議室（社会文化科学系総合研究棟 2 階） 学会賞選考委員会：マルチメディア講義室（社会文化科学系総合研究棟 1 階）

広報委員会：共通演習室 1（社会文化科学系総合研究棟 1 階） 国際交流委員会：共通演習室 2（社会文化科学系総合研究棟 1 階）

ロシア語教育委員会：共通演習室 3（社会文化科学系総合研究棟 1 階）

事務局：共通演習室 4（社会文化科学系総合研究棟 1 階）

休憩室：グラジュエイトラウンジ（社会文化科学系総合研究棟 2 階）

販売：社会文化科学系総合研究棟 1 階ロビー

2. 7月理事会関連事項

7月の理事会は、7月21日（土）に東京外国語大学総合文化研究所で開催されました。主な報告事項および審議事項は以下の通りです。

- 2007年度総会・研究発表会のスケジュールが決定されました。
- 会計（剰余金）WGより理事会に最終答申が報告されました。
- 研究発表会の要旨は、会報（今号）掲載のプログラムとは別に要旨集を作成しそちらに掲載することが今後の方向として確認されました。
- 11月以降の広報委員会の構成が以下の通り決定

4. 会員異動

入会（2007年7月理事会承認）五十音順

	推薦者		支部	研究分野
いいじま やすお 飯島 康夫	岩浅武久	御子柴道夫	関東	N.フォードロフの地理的空間論
うちだ けんすけ 内田 健介	御子柴道夫	鴻野わか菜	関東	ロシア文学・演劇
おまた ともふみ 小俣 智史	高野雅之	貝澤哉	関東	フォードロフをはじめとするロシア思想
おんだ よしのり 恩田 義徳	中澤英彦	匹田剛	関東	ロシア語学、古代教会スラヴ語
こまつ ゆうこ 小松 佑子	沼野充義	長谷見一雄	関東	スラヴ語・スラヴ文学
どい のぶあき 土居 伸彰	浦雅春	安岡治子	関東	ロシア映画
ポポヴァ タチアーナ Popova, Tatiana	井上幸義	白山利信	関東	ロシア語教育学、ロシア語学
みやもと むねみ 宮本 宗実	木村崇	望月哲男	関西	数学（確率論）
さとう ゆきこ 佐藤 ゆき子	亀山郁夫	渡辺雅司	関東	ロシア事情
のまち もととき 野町 素己	沼野充義	長谷見一雄	関東	スラヴ語学、言語学

退会

江上修代 高橋昭夫 長縄光男 向山珠代 松浦謙二

逝去（謹んでご冥福をお祈り申し上げます）

五味勝義

5. 編集委員会より

会誌「ロシア語ロシア文学研究」次号（第40号・2008年10月刊行予定）への投稿申し込みは、本年（2007年）11月末日が締め切りです。投稿希望者は、学会事務局宛に以下の2点をご郵送ください。

1) 論文要旨：A4用紙1枚（1,000字程度）

2) 氏名・住所（連絡先）・電話・FAX・メールアドレス：1) とは別紙に記す。

海外滞在中などのやむをえない場合に限り、FAX、メールなどでの申し込みを認めます。

この投稿申し込みは、今年度の学会報告をされたかどうかに関係なく、すべての投稿希望者に必要です。論文以外の原稿（書評、学会展望など）の投稿も歓迎します。

しました：

草野慶子（委員長）、久野康彦（HP担当）、安村仁志、鈴木正美、柿沼伸明、大西郁夫。

3. 学会賞決定

7月21日におこなわれた日本ロシア文学会学会賞選考委員会で、第4回ロシア文学会賞の受賞者が、以下の2氏に決定しました。授賞式は、10月27日の総会時に行われます。詳しくは会誌第39号をご覧ください。

本田 晃子

平松 潤奈

投稿される論文等はすべて査読審査を受けることになります。投稿申し込み締め切り後、各投稿論文等に対して査読審査員を決定し、委嘱します。

申し込みの段階で編集委員会が投稿をお断りすることはありませんので、申し込み後はすぐに原稿の執筆にとりかかってください。投稿論文等の提出締め切りは来年（2008年）1月末日（送り先は後日お知らせします）、審査結果は4月中旬に通知いたします。

投稿申し込みにあたっては、「日本ロシア文学会会誌規定」「会誌執筆要項」「投稿審査要領」（会誌表紙裏に掲載）もご参照ください。

「学会報告要旨」は「研究発表要旨（予稿）集」（会誌第39号別冊、2007.9）に掲載され、会誌次号には掲載されません。

編集委員会

プレシンポジウム, 総会, 研究発表会, 懇親会会場案内

千葉大学西千葉キャンパス：〒263-0022 千葉市稲毛区弥生町1-33



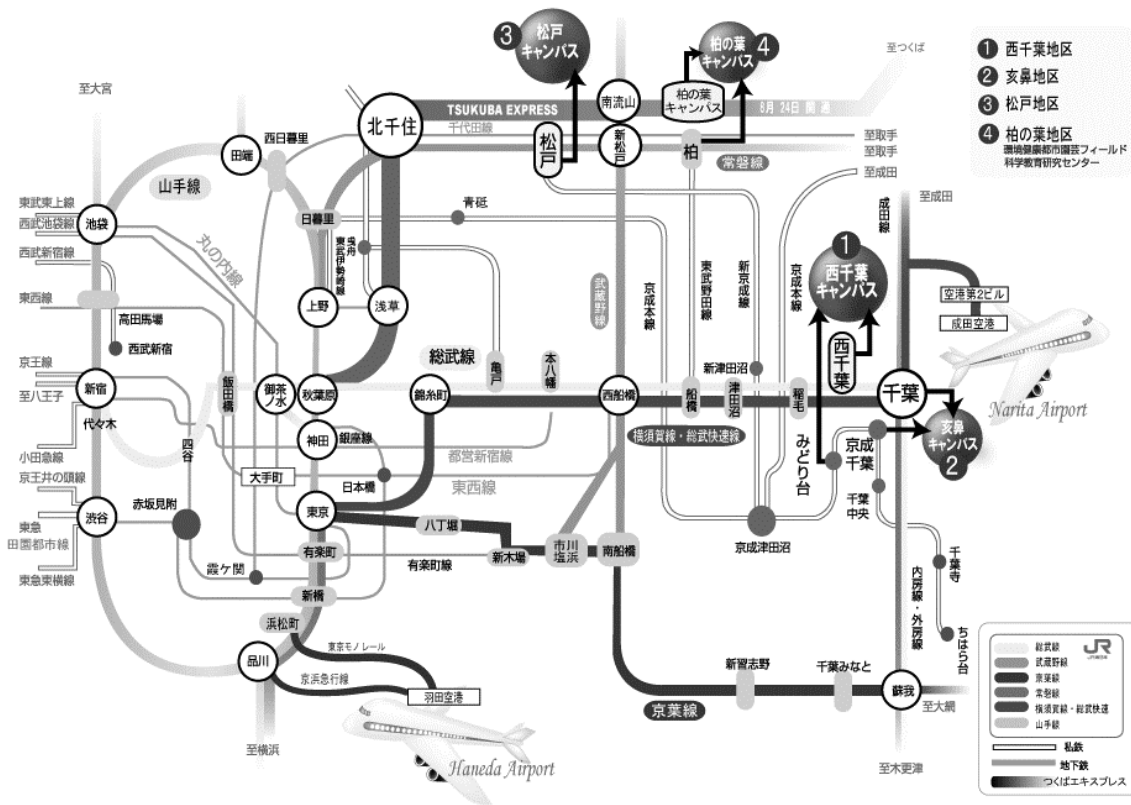
プレシンポジウム：けやき会館1階ホール（地図上で29番、正門を入れてすぐ左手にあります）

総会会場：社会文化科学系総合研究棟（地図上で21番、正門を入れて左方向に2分直進で左側にあります）

研究発表会場：社会文化科学系総合研究棟，文学部棟（地図上で12番，正門を入れて左方向に2分直進すると，右側にあります。社会文化科学系総合研究棟に近い小玄関をご利用下さい）

懇親会会場：けやき会館3階レセプションホール

交通情報



- ※1 JR西千葉駅より西千葉キャンパス南門まで徒歩約2分
- ※2 京成みどり台駅より西千葉キャンパス正門まで徒歩約7分

【JR 品川・東京駅から】“◇”は乗り換えを表します

JR 総武線（快速）乗車◇JR 稲毛駅（総武線（普通））－西千葉駅下車（※1）

【JR 秋葉原駅から】

JR 総武線（普通）乗車－西千葉駅下車（※1）

【京成上野駅から】

京成本線（特急）乗車◇京成津田沼駅（京成千葉線）－みどり台駅下車（※2）

【羽田空港から】

京浜急行線を利用

～JR 品川駅にて JR 総武線（快速）乗車◇JR 稲毛駅（総武線（普通））－西千葉駅下車（※1）

東京モノレールを利用

～JR 浜松町駅にて JR 山手線或いは JR 京浜東北線乗車◇JR 東京駅（JR 総武線（快速））◇JR 稲毛駅（総武線（普通））－西千葉駅下車（※1）

開催校からのお知らせ

※ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございませんが、10月28日（日）は、点検のため、西千葉キャンパス全域が終日停電致します。学会会場では発電機を使用致しますが、エレベーター、自動ドア、車輛ゲート、自動販売機の使用等が制限される恐れがございます。研究発表C会場（文学部棟）には、正面玄関ではなく、社会文化科学系総合研究棟（総会会場、A・B会場）に面した小玄関からお入り下さい。

※今回の総会・研究発表会については、宿泊の斡旋、弁当の手配はありません。

※会場となる千葉大学西千葉キャンパス周辺の施設は、数が少ないうえ規模も小さいため、近隣の駅より電車でおいでいただいた方が便利かと思えます。千葉駅周辺、総武線沿線には多数の宿泊施設がございますが、できるだけ早くに予約されることをお奨め致します。

※食事につきましては、大学近辺に飲食店・コンビニエンスストア等が複数所在しますので、随時それらをご利用願います。

屋食情報 (当日、会場においても情報を提供致します。)

<レストラン>

正門から徒歩 1 分

インド料理ガガル 正門前 11:00-15:00

徒歩 2 分

ラ・バンビーナ (イタリアン) 正門を出て西千葉駅北口に向かって 2 分。 11:30-15:00

徒歩 5 分

今日和 (イタリアン) 西千葉駅南口を出て左方向に 1 分 11:30-16:00

ガスト 西千葉駅前 (北口)

*西千葉駅南口には、他にも複数の食事処があります

徒歩 10 分

仏蘭西料理ミルフィーユ 正門を出て 5 分直進、京成線線路を越える。11:00 (日曜 12:00) -16:00

フランス家庭料理パリ食堂 正門を出て 5 分直進、京成線線路を越える。(土曜のみ。11:30-14:00)

徒歩 15 分

欧風料理 Need 西千葉駅南口を出て 5 分直進。左側のビル 2 階 11:30 (日曜 12:00) -15:00

フランス料理シェ・ランジュ 西千葉駅南口を出て 6 分直進 12:00-14:00

<コンビニエンスストア, ファーストフード>

J C 西千葉駅前 (北口)

サンクス 西千葉駅前 (北口)

ファミリーマート 正門を出て 1 分直進した右側

今日和イタリアンデリ 西千葉駅前 (北口)

マクドナルド 西千葉駅ビルメリーナ内

モスバーガー 正門を出て 1 分直進した左側

総会・研究発表会についてのお問い合わせは

日本ロシア文学会事務局まで (東京外国語大学外国語学部 匹田研究室内)

電話: 042-330-5264 メール: hikita@tufs.ac.jp

なお、当日会場受付では年度会費の取扱いはしておりません。会費は、この会報に同封された振込用紙にてお納め下さい。

日本ロシア文学会 会報 第 33 号

(2007 年 9 月 1 日発行)

発行人 井桁貞義

編集人 日本ロシア文学会事務局

〒183-8534

東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学外国語学部匹田研究室内

hikita@tufs.ac.jp